

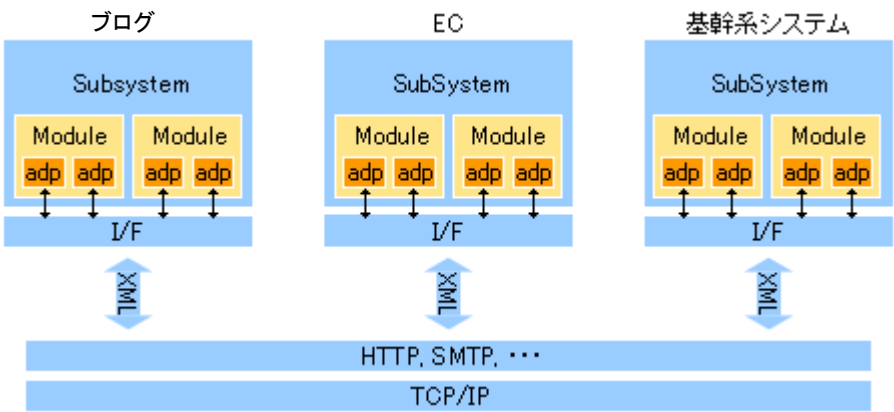
**ご参考: 将来の拡張性として本格的なシステム連携も可能**

snacleでは、サブシステムの中の機能を他のサブシステムから呼び出して利用可能にする仕組みが利用できます。(別途費用) この仕組みをサブシステム間連携と呼びます。

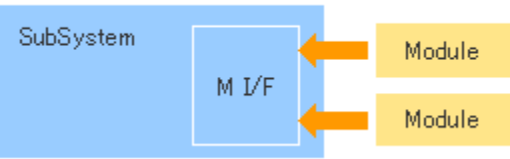
サブシステム間でやり取りするデータの形式はXMLで定義します。このXMLのデータを運ぶ仕組みは、HTTPやSMTPなどの既存の仕組みを利用します。snacleは、XMLのデータを生成し、そのデータを運ぶ仕組みを備えています。

各システムから必要となるデータを抽出したり、セットする役割を受け持つのがアダプタです。既存のシステムなど他のサブシステムと連携を行う際には、このアダプタを用意する必要があります。snacleでは、アダプタのテンプレートを用意しています。

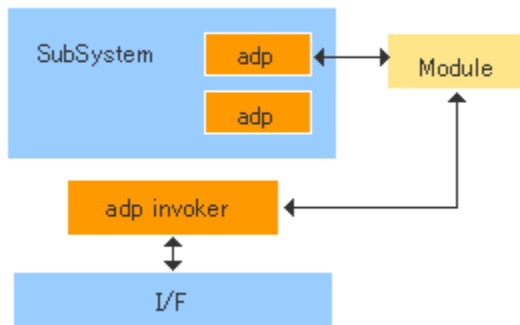
アダプタをまとめた単位をモジュールと呼びます。サブシステムでは、モジュール単位で機能を追加したり削除するなどの管理を行います。



I/F: XMLデータの解析と該当するadpとのやり取りを集中的に行います。  
 adp (アダプタ): I/Fから受け取ったデータを元にSubSystem内モジュール等とやり取りし、その結果をI/Fに戻します。  
 SubSystem (サブシステム): 1つの機能を持ったシステムの単位。ここでは、プログやECや基幹系システムをさします。



M I/F: 組み込むモジュールとの共通インターフェース。(テーブル定義、プログラム、データ仕様を含む)  
 Module (モジュール): SubSystemに追加/削除可能である機能。(M I/Fに従った仕様に準拠)



I/F: HTTP、SMTPなどのプロトコルに応じたデータ送受信プログラム部分。  
 adp invoker: I/Fから受け取った情報をもとに実際に使用するモジュールとアダプタを判断し、呼び出します。その際に、XMLデータの解析や生成をします。